

II. 專 門 基 礎 分 野

「解剖生理学」

使用テキスト・参考文献 一覧

	科目	担当者	テキスト	参考文献
解剖生理学Ⅰ	皮膚感覚 体温と調節	森木 睦	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	眼の構造と視覚	櫻井 美晴	系統看護学講座 医学書院 1)専門基礎分野「解剖生理学」 2)専門分野 「眼」	
	聴・平衡・嗅覚 咽喉	池上 聰	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	神経系	米澤 慎悟	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	骨格と筋肉	杉山 義晴	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
解剖生理学Ⅱ	呼吸器、呼吸	佐野 武尚	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	血液循環と その調節	影山 茂貴	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	血液と 生体防御機構	岩井 一也	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	腎臓・体液の調節	寺田理沙子	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
解剖生理学Ⅲ	口の構造と機能	大山 巖雄	系統看護学講座 医学書院 1)専門基礎分野「解剖生理学」 2)専門分野 「歯・口腔」	
	消化器 消化、吸収 栄養、代謝	黒石 健吾	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	自律神経、内分泌 ホルモン分泌調節	清水 洋佑	系統看護学講座 専門基礎分野 1)「解剖生理学」 医学書院 2)専門分野 「内分泌・代謝」	
	女性生殖器 受精と発生	水野 薫子	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	男性生殖器 生殖機能、 排尿器、排尿	高島 靖	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	

必修科目(1)

科目	解剖生理学 I	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	医師: 森木 睦 ・ 櫻井 美晴 池上 聰 ・ 米澤 慎悟 杉山 義晴
----	---------	----	---	-----	----	-----	------	-----	---

講義の概要および学習目標	皮膚の構造とその機能を理解する。 眼球及び視路の構造と機能を学ぶ。 耳、鼻、口腔、咽頭、頸部の構造と機能を学ぶ。 解剖の理解により疾患、症状を理解する。めまい検査の実施。 神経系の解剖に関する知識を習得する。 神経系の形態と機能について理解を深める。 A : 神経系とはどのようなものか B : 脊髄 C : 脳 D : 脊髄神経 E : 脳神経 F : 自律神経系 G : 伝導路 人体の構造と機能についての知識を得、理解を深める。
講義内容	◎ <u>皮膚感覚・体温と調節</u> (2時間) 担当: 森木 睦 ・皮膚の構造と機能 ◎ <u>目の構造と視覚</u> (2時間) 担当: 櫻井 美晴 ・眼瞼、涙器、結膜、角膜、虹彩、水晶体、硝子体、網膜、神経系の構造 ・上記の機能 ◎ <u>聴覚・平衡覚、嗅覚・味覚</u> (4時間) 担当: 池上 聰 ・耳、鼻の解剖生理 ・口腔、咽頭の解剖生理 ・頸部の解剖生理 ◎ <u>神経性調節</u> (14時間) 担当: 米澤 慎悟 ・神経細胞と支持細胞、ニューロンでの興奮伝達、シナプスでの興奮伝達 神経系の構造 ・脳室と髄膜、脳脊髄液 ・脳(大脳、間脳、小脳、脳幹) ・脊髄(脊髄の構造、脊髄の機能)、脳神経 ・脳神経、脳の高次機能 ・情動運動、自律神経、中枢神経系の障害、伝導路、脳ヘルニア ◎ <u>運動系</u> (8時間) 担当: 杉山 義晴 ・構造と機能からみた人体 ・骨格・骨の連結・骨格筋 ・体幹の骨格と筋 ・上肢の骨格と筋 ・下肢の骨格と筋 ・頭頸部の骨格と筋 ・筋の収縮
評価法	出席状況および筆記試験
受講生への要望	休まず出席すること。 講義をしっかり聞いて欲しい。 講義時間内に全てを講義する時間的余裕はないので、教科書に一度は目を通すこと。 新しい用語、専門用語が多く全てを覚えることは難しいが、講義中頻回に出る言葉は十分理解すること。

必修科目(2)

科目	解剖生理学Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	医師:佐野 武尚・影山 茂貴 岩井 一也・寺田理沙子
----	--------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>呼吸は生命を維持するのに最も基本的な行為の一つであり、意識下でもコントロールでき、無意識下でも維持、調節されている。まずはその重要な呼吸を司る臓器のしくみと解剖を理解すること。そして、肺の生理的機能と、どのようにそれを利用し調節、活用しているのか基本的な事象ごとに理解していくことを主目標とする。さらには代表的な肺疾患を通して、臓器の障害や機能異常がどのように自覚症状や他覚所見につながっていくか理解を深めていく。</p> <p>循環器系の解剖と生理の最低限の知識を身につける。 苦手意識を持たずに学習する。</p> <p>血液疾患の病態生理、診断法、治療法、患者の看護に役立つ血液や免疫、及びその周辺に位置する輸血学の基礎知識を習得する。</p> <p>ヒトの体の60%を占めている水分について、そのバランスのくずれと病気との関係を理解する。 血漿中の主な電解質(NaとK)の濃度調節の重要性を理解する。</p>
講義内容	<p>◎<u>呼吸器・呼吸</u> (10時間) 担当:佐野 武尚</p> <p>A 呼吸器の構造 ①呼吸器の構造 ②上気道 ③下気道と肺 ④胸膜・縦隔</p> <p>B 呼吸 ①内呼吸と外呼吸 ②呼吸器と呼吸運動 ③呼吸器量 ④ガス交換とガスの運搬 ⑤肺の循環と血流 ⑥呼吸運動の調節 ⑦呼吸器系の病態生理</p> <p>◎<u>血液循環とその調節</u> (12時間) 担当:影山 茂貴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心臓の解剖、構造 ・ 心臓の生理 ・ 末梢循環の構造 ・ 血液循環とその調節 <p>◎<u>血液と生体防御機構</u>(6時間) 担当:岩井 一也</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 血液の構造、赤血球、血小板、好酸球、リンパ球の機能 ・ 輸血(赤血球輸血、血小板輸血、血液型、輸血の副作用、Rh型、不適合輸血、緊急時の輸血、交差適合試験) ・ 免疫(液性免疫、細胞性免疫、免疫不全) ・ HIV感染症とエイズ ・ 血栓と止血(血液凝固カスケード、血友病) ・ 造血幹細胞移植(自家末梢血幹細胞移植、血縁者間骨髄移植、骨髄バンク、非血縁者間骨髄移植、臍帯血移植) <p>◎<u>腎・泌尿器 体液の調整</u> (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 腎(・泌尿器)の構造 ・ 水分バランスのくずれと病気との関係 ・ 血漿中の電解質の濃度調節
評価法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席状況、授業態度を重視する。 ・ 特に授業中の質問に対する返答の姿勢(正解の有無は問わず) ・ 疑問点を発する能力・討論する能力・人の話を正確に理解する能力 ・ 筆記試験
受講生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻せず、休まず出席すること。 ・ 解らないところは積極的に質問すること。 ・ 居眠り厳禁。 ・ 何にでも参加して勉強しよう。 ・ 「？」と「！」を自分で探そう。思ったことはその場で言おう。 ・ あらかじめ、テキストを通読しておくことが望ましい。

必修科目(3)

科目	解剖生理学Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講期	1年 前期	担当者	医師: 大山 厳雄・黒石 健吾 清水 洋佑・水野 薫子 高島 靖
----	--------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	--

講義の概要および学習目標	<p>口腔・咽頭・食道各々構造と機能について学ぶ。 消化器系の器官の一つとして口腔・咽頭・食道機能と構造を理解し、他の消化器系の器官との関連を考えながら機能を学ぶ。</p> <p>消化器系の構造と機能について学ぶ。</p> <p>ホメオスタシスとこれを維持する自律神経系、内分泌系の機能を理解する。 ホルモンの分泌・調整と機能亢進・低下が人体に与える影響について理解する。</p> <p>女性生殖器の解剖と生理学を理解する。 受精～胎児の発生について学ぶ。</p> <p>腎泌尿器系の構造と機能を学ぶ。 医療現場で仕事をするうえで最低必要な泌尿器科の基礎知識を身につける。</p>
講義内容	<p>◎<u>口の構造と機能</u> (2時間) 担当: 大山 厳雄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔の構造と機能 ・咽頭と食道の構造と機能 <p>◎<u>消化器系</u> (10時間) 担当: 黒石 健吾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食道、胃、小腸、大腸、肝、胆、膵、腹膜の解剖と生理 ・蛋白質、脂肪、炭水化物の代謝 <p>◎<u>自律神経、内分泌、ホルモン分泌調節</u> (10時間) 担当: 清水 洋佑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホメオスタシス 自律神経と内分泌総論 ・甲状腺、副甲状腺、膵臓 ・副腎、性腺、内分泌以外のホルモン ・視床下部-下垂体系 ・ホルモン分泌調節 <p>◎<u>生殖器系・人体の発生</u> (4時間) 担当: 水野 薫子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性生殖器の解剖 ・月経周期と性ホルモン調節 ・受精過程と胎児の発生・分化 <p>◎<u>男性生殖器、生殖機能、排尿器、排尿</u> (4時間) 担当: 高島 靖</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泌尿器科関係の解剖生理 ・尿路、性器の先天異常
評価法	出席状況・聴講の態度・筆記試験
受講生への要望	遅刻せず、休まず出席すること。 予習を行い、質問等があれば講義の中で質問して欲しい。

必修科目(4)

科目	看護のための人間論	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師:脇田 由紀子 山口 一世 中村 泉 小長井由樹
----	-----------	----	---	-----	----	-----	------	-----	--------------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>看護は対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程をととのえることである。つまり、対象に起きている生命力を消耗させている事実注目し、その事実と生活のあり方を重ねる。そうすることで、看護の力をどこに注げば対象が健康のよい状態に向かうのか判断し実践できる。看護を行うためには、対象への看護の必要性が浮かび上がるような人間の見つめ方を習得する必要がある。</p> <p>この科目では、看護の対象である人間の健康のよい状態に注目する。健康のよい状態で生活する人間本来の姿を描きながら、人間の身体と24時間繰り返される生活のあり方を看護の視点で見つめ、健康と生活がどのようにつながっているのか解いていく。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間が健康のよい状態であるとはどのようなことか明らかにする 2 人間が健康のよい状態を保つためには、どのような生活をすればよいのか看護の視点で考える
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護のための人間論 健康のよい状態とは 2 恒常性の維持と細胞の代謝 3・4 『換気と保温』が大事な理由 わたしの生活は大丈夫?? (GW) 5 生命誕生 6 胸部(生命の源)にある器官の働きと生活 7・8 人間が健康のよい状態である“めぐり”とは? (GW) 9 口腔から肛門まで(食と排泄)にある器官の働きと生活 10・11 健康のよい状態であるためには、消化管をどう働かせるとよいのか? (GW) 12・13 沈黙の臓器はどのように内部環境を整えているのか? (GW) 14 腹部(内部環境の働き)にある器官の働きと生活 15 提案書作成
評価法	グループワークの参加発表状況、グループワークの成果物、個人レポートを総合して評価します
受講生への要望	この科目は、グループワークを行いながら人間の健康な生活について見つめていきます。既習の解剖生理学や生物学、生化学などの知識を大いに活用し、主体的に取り組んでください。人間はどのように生活すれば健康のよい状態に向かうのか、自らの生活を振り返ってください。そして、健康のよい状態を保つための生活を自分自身に提案してみてください。
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社 2)ナースが視る病気／薄井 坦子／講談社 3)看護覚え書／フロレンス・ナインチンゲール 訳 湯楨 ます他／現代社
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)解剖生理学 人体の構造と機能①／坂井 建雄, 岡田 隆夫／医学書院 2)看護の生理学(1)(2)(3)人間をみる看護の視点／薄井 坦子, 瀬江 千史／現代社 3)看護 形態機能学／菱沼典子／日本看護協会出版会 4)看護学生、宇宙を学ぶ／小河一敏／アノック

必修科目(5)

科目	生化学	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	竹内 英之 紅林 佑希		
講義の概要および学習目標	<p>生化学は、生命現象を化学的に解明する学問分野であり、これから学ぶ専門分野の講義を理解するための基礎知識の習得を目標としています。</p> <p>生化学を学ぶことによって、人間のからだがどのように維持されているか、また各種臓器の機能がどのように調節されているかを知ることができ、さらにはいかにして病気になるかを考えることができるようになります。特に生体を構成している物質とその代謝について詳しく勉強します。</p> <p>目標 1 生体を構成する物質について理解する。 2 遺伝情報とその発現について理解する。 3 生体内の物質代謝を酵素の働きとともに理解する。</p>										
講義内容	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> 1 生化学を学ぶための基礎知識 2 代謝の基礎、酵素 3 代謝の基礎、補酵素、ミネラル 4 糖質の構造、機能、代謝 5 脂質の構造、機能、代謝 6 タンパク質の構造、機能、代謝 7 遺伝子と核酸 8 遺伝子の複製、修復、組み換え 9 転写、DNAのプログラミング、発現調節 10 翻訳と翻訳後修飾 11 シグナル伝達 12 内分泌の生化学的基盤 </td> <td style="width: 50%; border: none;"> 13 がんの生化学 14 まとめ 15 終了試験 </td> </tr> </table>									1 生化学を学ぶための基礎知識 2 代謝の基礎、酵素 3 代謝の基礎、補酵素、ミネラル 4 糖質の構造、機能、代謝 5 脂質の構造、機能、代謝 6 タンパク質の構造、機能、代謝 7 遺伝子と核酸 8 遺伝子の複製、修復、組み換え 9 転写、DNAのプログラミング、発現調節 10 翻訳と翻訳後修飾 11 シグナル伝達 12 内分泌の生化学的基盤	13 がんの生化学 14 まとめ 15 終了試験
1 生化学を学ぶための基礎知識 2 代謝の基礎、酵素 3 代謝の基礎、補酵素、ミネラル 4 糖質の構造、機能、代謝 5 脂質の構造、機能、代謝 6 タンパク質の構造、機能、代謝 7 遺伝子と核酸 8 遺伝子の複製、修復、組み換え 9 転写、DNAのプログラミング、発現調節 10 翻訳と翻訳後修飾 11 シグナル伝達 12 内分泌の生化学的基盤	13 がんの生化学 14 まとめ 15 終了試験										
評価法	終了試験										
受講生への要望											
テキスト	書名／著者名／発行所 系統看護学講座 専門基礎分野「生化学」／畠山 鎮次 /医学書院										
参考文献	書名／著者名／発行所										

必修科目(6)

科目	病理学	単位	1	時間数	20	開講期	1年後期	担当者	医師：森木 利昭
----	-----	----	---	-----	----	-----	------	-----	----------

講義の概要および学習目標	病理学を通して疾患の形態学的な変化を学び、基本的な病気を理解することを目標とする。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 病理検査法 2 病理学総論 3 病理学各論: 主要な疾患 4 その他
評価法	筆記試験で評価するが、出席状況、授業態度も考慮する。
受講生への要望	講義内容を教科書・配布資料で復習してください。 医療現場における病理の仕事を身近に感じてほしい。
テキスト	書名／著者名／発行所 系統看護学講座 専門基礎分野「病理学」／大橋健一／医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所

「病態生理と治療」 使用テキスト・参考文献 一覧

◆ 病態生理と治療 I

科目	担当者	テキスト：書名・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
皮膚疾患	森木 睦	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「皮膚」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 14 『皮膚科』 第1版 MEDIC MEDIA
耳鼻咽喉疾患	池上 聰	1) 系統看護学講座 専門分野 「耳鼻咽喉」 医学書院	1) 「よくわかる嚥下障害」 藤島一郎 永井書店 2) 病気がみえる Vol. 13 『耳鼻咽喉科』 第1版 MEDIC MEDIA
眼疾患	櫻井 美晴	1) 系統看護学講座 専門分野 「眼」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 12 『眼科』 第1版 MEDIC MEDIA
脳神経疾患	石黒 光紀	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「脳・神経」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 7 『脳・神経』 第2版 MEDIC MEDIA
運動器疾患	西 恵佳	1) 系統看護学講座 専門分野 「運動器」 医学書院	1) 「看護のための最新医学講座 第18巻 運動器疾患」 中村利孝 中山書店 2) 「カラー写真で見る骨折・ 脱臼・捻挫」 内田淳生 羊土社 3) 病気がみえる Vol. 11 『運動器・整形外科』 第1版 MEDIC MEDIA

◆ 病態生理と治療 II

科目	担当者	テキスト：書名・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
血液造血器疾患 膠原病 アレルギー疾患	岩井 一也	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「アレルギー・膠原病・感染症」 医学書院 3) 系統看護学講座 専門分野 「血液・造血器」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 5 『血液』 第2版 MEDIC MEDIA 1) 病気がみえる Vol. 6 『免疫・膠原病・感染症』 第2版 MEDIC MEDIA
循環器疾患	杉山 博文	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「循環器」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 2 『循環器』 第5版 MEDIC MEDIA
呼吸器疾患	藤井 雅人	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「呼吸器」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 4 『呼吸器』 第3版 MEDIC MEDIA

◆ 病態生理と治療Ⅲ

科目	担当者	テキスト：書名・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
口腔疾患	大山 厳雄	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「歯・口腔」 医学書院	
消化器疾患	木村 領佑	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「消化器」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 1 『消化器』 第6版 MEDIC MEDIA
内分泌疾患	田村 尚久	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「内分泌・代謝」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 3 『糖尿病・代謝・内分泌』 第5版 MEDIC MEDIA
腎・泌尿器疾患	八木橋祐亮	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「腎・泌尿器」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 8 『腎・泌尿器』 第3版 MEDIC MEDIA

◆ 病態生理と治療Ⅳ

	担当者	テキスト：書名・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
女性生殖器疾患 周産期の異常	水野 薫子 米澤 真澄 杉山 加苗	1) 系統看護学講座 専門分野 「女性生殖器」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「母性看護各論」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 9 『婦人科・乳腺外科』 第4版 MEDIC MEDIA
乳腺疾患	矢崎 真澄	1) 系統看護学講座 専門分野 「女性生殖器」 医学書院 「臨床外科看護各論」 医学書院	
小児疾患	五十嵐健康 酒井秀政 吉岡耕平 大井正 糀谷淳一郎 平田梨紗	1) 系統看護学講座 専門分野 「小児臨床看護各論」 医学書院 2) こどもの地図帳 講談社	

◆ 病態生理と治療Ⅴ

科目	担当者	テキスト：書名・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
精神疾患	中村 幸治 臨床心理士	1) 系統看護学講座 専門分野 「精神看護の基礎」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「精神看護の展開」 医学書院	1) 看護のための精神医学 第2版 中井久夫 医学書院

必修科目(7)

科目	病態生理と治療 I	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	医師: 森木 睦・池上 聰 櫻井 美晴・石黒 光紀 西 恵佳
----	-----------	----	---	-----	----	-----	------	-----	--------------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>代表的な皮膚疾患の病態生理と治療法について学ぶ。</p> <p>代表的な耳鼻咽喉科疾患の病態生理と治療法について学ぶ。</p> <p>眼科的疾患とその治療法・治療に際しての看護のポイントを学ぶ。</p> <p>基本的脳疾患の理解。</p> <p>器官の機能上の特徴と、疾患によって生じる機能障害、運動障害、および派生する身体的、心理・社会的な問題点をふまえ、看護を行う際の心得、要領ならびに援助の内容・方法を学習する。</p>
講義内容	<p>◎<u>皮膚疾患</u> (4時間) 担当: 森木 睦 ・代表的な皮膚疾患の病態と治療法</p> <p>◎<u>耳鼻咽喉疾患</u> (4時間) 担当: 池上 聰 ・耳鼻咽喉の解剖の復習と耳鼻咽喉疾患の理解</p> <p>◎<u>眼疾患</u> (2時間) 担当: 櫻井 美晴 ・眼瞼の炎症性疾患、白内障、緑内障、網膜剥離といった代表的疾患を中心とした疾患概念、治療法、看護のポイント</p> <p>◎<u>脳・神経疾患</u> (12時間) 担当: 石黒 光紀 ・基本的脳疾患の理解とその治療法</p> <p>◎<u>運動系疾患</u> (8時間) 担当: 西 恵佳 ・骨折と骨粗鬆症 ・変形性関節症、関節リウマチ ・骨髄炎、骨腫瘍、下肢切断 ・脊髄損傷、腰椎椎間板ヘルニア</p>
評価法	<p>出席状況・聴講の態度・筆記試験</p>
受講生への要望	<p>休まず出席すること。 講義内容が試験に出ます。講義をしっかりと聴いてほしい。 予習を行い、質問等があれば講義の中で質問して欲しい。</p>

必修科目(8)

科目	病態生理と治療Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	医師：岩井 一也 杉山 博文 藤井 雅人
----	----------	----	---	-----	----	-----	------	-----	----------------------------

講義の概要および学習目標	<p>一般に疾患頻度が少なく、分類が複雑なために、難解とされ、敬遠されやすい血液疾患、免疫疾患の病態生理を系統的にシンプルに理解することを目標とする。基礎がしっかりと理解されると、診断・治療さらには看護の重要ポイントを体感することが可能となる。</p> <p>循環器系疾患の病態生理及び治療に対する理解。</p> <p>疾患については総論、各論方式で説明。 説明においては全体像が頭の中にイメージできるように流れ図的に説明。 具体項目は形態(解剖)と対比しつつ、気道疾患、感染症、肉芽腫性疾患、肺間質疾患肺腫瘍、胸膜疾患、肺循環障害などが主な項目となる。</p>
講義内容	<p>◎<u>血液造血疾患、膠原病、アレルギー疾患</u> (8時間) 担当:岩井 一也</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧血の分類、貧血の鑑別診断 ・鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血の病態生理、診断と治療 ・再生不良性貧血 ・骨髄異形成症候群 ・溶血性貧血(自己免疫性溶血性貧血、球状赤血球症) ・急性白血病(急性骨髄球性白血病、急性リンパ性白血病)、 ・慢性骨髄性白血病とフィラデルフィア染色体、イマチニブの効果 ・悪性リンパ腫の分類と治療 ・血栓と止血(血小板減少性紫斑病、播腫性血管内凝固症候群の診断と治療) ・Coombsによるアレルギーの分類 ・自己免疫疾患の定義 ・代表的膠原病である全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、シェーグレン症候群の病態生理と臨床症状 ・骨髄穿刺&生検の適応と手技 ・化学療法を受けている患者の看護 <p>◎<u>循環器疾患</u> (8時間) 担当:杉山 博文</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 虚血性心疾患 2. 心不全 心筋症 大動脈疾患 3. 不整脈とBLS 4. 先天性心疾患と弁膜症 <p>◎<u>呼吸器疾患</u> (14時間) 担当:藤井 雅人</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器疾患について 2. 総論、各論に分けて説明 3. 主要疾患のイメージを伝える・・・疾患の原因、病態、症状、検査、診断、治療 最後にどうなるかまでを一連の流れの中でとらえてもらう
評価法	出席状況・授業態度・筆記試験
受講生への要望	<p>あらかじめ、テキストを通読しておくことが望ましい。 基本的なことはテキストで予習してきて下さい。 復習をしっかりとってください。</p>

必修科目(9)

科目	病態生理と治療Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	医師:大山 巖雄・木村 領佑 田村 尚久・八木橋 祐亮
----	----------	----	---	-----	----	-----	------	-----	--------------------------------

講義の概要および学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯・口腔の症状と病態生理 ・歯・口腔疾患の治療と検査・処置 ・解剖生理学と関連させ、歯、口腔に健康障害を生じたときの、病態生理、治療・検査・処置を学ぶ。また疾患の病態を理解し消化器機能への影響も考える。 ・消化器の病態生理とその治療法を学ぶ。 ・内分泌・代謝疾患:疾患の特性、検査や治療の組み立ての概要を学び理解し、患者にもっとも近い存在として、チーム医療の中での診療の中核的役割を担い、また、いわゆる生活習慣病などにおいて適切な生活指導をすることができる。 ・医療現場で仕事をするうえで最低限必要な泌尿器科の基礎知識を身につける。
講義内容	<p>◎<u>口腔疾患</u> (4時間) 担当:大山 巖雄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯・口腔の症状と病態生理 ・歯・口腔疾患の治療と検査・処置 <p>◎<u>消化器疾患</u> (10時間) 担当:木村 領佑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消化器疾患の病態生理・診断・治療 ・消化器疾患 各論 <p>◎<u>内分泌・代謝疾患</u> (8時間) 担当:田村 尚久</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代謝疾患(糖尿病、高脂血症、痛風、肥満)および内分泌疾患の理解、検査、治療法 <p>◎<u>腎・泌尿器疾患</u> (8時間) 担当:八木橋 祐亮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泌尿器科関係の検査 ・尿路感染症 ・尿路性器の腫瘍 ・尿路結石症 ・その他
評価法	出席状況および筆記試験
受講生への要望	<p>休まず出席すること。</p> <p>糖尿病は国民病とも言えるほど増加しています。</p> <p>自分自身も疾患を発症しやすい体質を持っていると思って学習してください。</p> <p>医療は常に技術が進歩している。教科書に記載されたときにはすでに古い情報となっていることも多い。講義ではできるだけ新しい内容を話すつもりです。</p> <p>講義を中心に勉強していただきたい。</p>

必修科目(10)

科目	病態生理と治療Ⅳ 周産期の異常 女性生殖器疾患 乳腺疾患・小児疾患	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	医師：水野 薫子・米澤 真澄 矢崎 真澄・五十嵐健康 酒井 秀政 吉岡耕平 大井正 糀谷淳一郎 平田梨紗 助産師：杉山 加苗
----	--	----	---	-----	----	-----	----------	-----	--

講義の概要および学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・産婦人科領域における診察、検査法を学び、婦人科疾患を把握する。 ・妊娠・分娩の異常、ハイリスク妊娠を理解する。 ・乳腺疾患のうち、乳がん(乳腺悪性疾患) ・乳腺良性腫瘍、乳腺良性腫瘍性疾患 ・発生、発育の異常、炎症について学習する。 ・小児の看護の実践に必要な基礎知識と技術の習得を目指す。 具体的には知識の羅列ではなく、個々の症例の問題点に対して柔軟に対応できるような基礎的医学知識と思考プロセスの獲得を目標とする。
講義内容	<p>◎<u>女性生殖器疾患 (12時間) 担当:水野 薫子・米澤 真澄・杉山 加苗</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性生殖器疾患の診察・女性生殖器疾患の症状 ・女性生殖器疾患・周産期の検査・処置 ・疾患の理解 : 性分化異常(奇形) 臓器別疾患(外陰・膣・子宮・卵管・卵巣腫瘍・絨毛性疾患等) 機能的疾患(月経異常・不妊症・生殖補助技術・不育症) ・妊娠期の感染症 ・妊娠中の異常(流産・早産・異所性妊娠・羊水過少・過多・妊娠高血圧症候群・産科DIC・IUGR・多胎) 分娩時の異常(前置胎盤・常位胎盤早期剥離・回旋異常・CPD・微弱陣痛・吸引分娩・鉗子分娩・帝王切開・弛緩出血) <p>◎<u>乳腺疾患 (2時間) 担当:矢崎 真澄</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳がんの疫学・乳がんの診断・乳がんの治療 ・線維腺腫・葉状腫瘍・乳管内乳頭腫 <p>◎<u>小児疾患(16時間) 担当:五十嵐健康・酒井秀政・吉岡耕平・大井正・糀谷淳一郎・平田梨紗</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 未熟児新生児疾患、先天奇形、遺伝染色体疾患 2. 感染症 3. 免疫アレルギー疾患 4. 神経疾患、心身症 5. 内分泌代謝疾患、腎疾患、血液疾患、循環器疾患、消化器疾患 6. 関連境界領域
評価法	出席状況および筆記試験
受講生への要望	<p>遅刻せず、休まず出席すること。</p> <p>授業中に示す重要なポイント、および基本的な思考方法を中心に習得してください。</p>

必修科目(11)

科目	病態生理と治療Ⅴ 精神疾患	単位	1	時間数	20	開講期	2年後期	担当者	医師:中村 幸治 臨床心理士
----	------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------------------

講義の概要および学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害の疫学、症状、診断、治療、経過と予後について学習する。 2. 看護実践のために必要な知識を習得し、医療チームの一員として精神疾患の看護が担える基礎的能力を養う。 3. 精神的問題の重要性を認識する。 4. 「こころの病」への興味・理解を深める。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神障害の理解(精神科医療の歴史、精神障害者の現状、精神疾患のとらえ方、精神障害の原因・分類) 2 精神障害者の抱える症状の理解 3 精神障害の診断と検査 4 精神障害の治療(薬物療法、精神療法、電気けいれん療法、社会復帰療法) 5 主な疾患の診療(器質性精神障害、依存症、総合失調症、気分障害、不安障害、適応障害、パーソナリティ障害、解離性・転換性障害、摂食障害、児童・思春期の精神障害) 6 コンサルテーション・リエゾン精神医学 7 患者家族の理解とその援助 (担当:中村幸治 18時間) 8 心理検査 うつ病診断認知療法 (担当:臨床心理士 2時間)
評価法	筆記試験
受講生への要望	<p>遅刻せず、休まず出席すること。</p> <p>授業中に示す重要なポイント、および基本的な思考方法を中心に習得してください。</p>

必修科目(12)

科目	看護のための疾病論	単位	1	時間数	30	開講期	1年 後期	担当者	看護師:矢野 玲枝 杉山 加苗 松永しのぶ 松本 理恵
----	-----------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	--------------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>看護師はどのように病気の人をみつめたらよいのか、この科目では、病気のみつめ方について学ぶ。健康のよい状態から病気への変化のプロセスの理解を深め、対象のどのような生活が、健康状態の変化につながったのかを理解する。さらに、生活との関連において、生命力を脅かすものを発見して、生活過程をととのえる方向性を見出せるような病気のとらえ方を習得する。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護する立場から、病気のみつめ方を習得する 2 対象がよりよく生きるためにどのように生活すればよいのかを思い描くことができる
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 科目概要 看護師の病気のみつめ方 2・3・4 看護の視点でみつめる「骨折」とは？ 5・6・7 看護の視点でみつめる「脳卒中」とは？ 8・9・10 看護の視点でみつめる「がん」とは？ 11・12・13 看護の視点でみつめる「糖尿病」とは？ 14・15 科目まとめ ワーク・発表 <p>* 2～13は3回を1単位として1回目；講義・グループワーク、2回目；グループワーク、3回目グループ発表とまとめをおこなう</p>
評価法	<p>個人課題・グループワークの参加状況・グループワークの成果物・単元終了後レポートを総合評価します。 (※ピア評価・教員による評価の視点をルーブリックにて示します。)</p>
受講生への要望	<p>この科目は、個人ワーク・グループワークを行いながら病気のみつめ方について学んでいきます。解剖生理学や病態生理と治療などの既習の知識を大いに活用し、主体的に取り組んでください。そして、この科目で学んだことをもとに、実習でも活かしていけるように学んでいきましょう。尚、個人課題・グループ課題などの提出物はGoogle Classroomを利用することがあります。提出方法については授業の中で説明しますが、学校指定の書式設定で提出してもらいますので、準備を整えておいてください。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 ナースが視る病気／薄井 坦子／講談社 ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社 病気の地図帳／山口 和克／講談社</p>
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>単元ごと、授業の中で紹介します。</p>

必修科目(13)

科目	微生物学	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	内藤 博敬
----	------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------

講義の概要および学習目標	<p>人間の営みと微生物との関係を理解するとともに、微生物の分類、微細構造・形態学的特徴、生物学的特徴、生化学的性状、増殖についての基礎知識を習得する。また、様々な病原微生物が、どのような感染症を引き起こすかについて、感染症の感染源、感染経路、診断法、滅菌・消毒法を含む感染防御法、感染防御免疫、化学療法薬についての理解を深め、看護師として必要な行動がとれるための知識を習得する。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 微生物の種類毎の特徴について説明できる。 2 感染防御機構について説明できる。 3 各々の微生物の感染メカニズムを理解し、検査、治療や予防法について意義を説明できる。 4 日本の感染症対策およびその問題点について認識し、以降の科目へ繋げることができる。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 微生物学概論 2 微生物と微生物学 3 細菌1 4 細菌2 5 ウイルス真菌、原虫および寄生虫 6 真菌、原虫および寄生虫 7 感染と感染症 8 感染経路 9 生体防御機構1(自然免疫) 10 生体防御機構2(獲得免疫) 11 細菌、ウイルス、真菌の感染メカニズム 12 感染症予防/消毒・滅菌 13 感染症の検査と治療 14 感染症の現状と対策 15 期末試験 <p>注)上記講義項目は、内容によって時間配分が異なります。また、感染症の流行などによって、講義内容を一部変更する場合があります。</p>
評価法	<p>期末試験および授業態度(レポート、ミニテスト、アンケート)の総合評価とする。なお、欠席(忌引き、インフルエンザ・コロナ等の公欠を除く)は授業態度の減点要素とし、3分の1以上欠席した者は再履修とする。</p>
受講生への要望	<p>”微生物学をはじめとする科学的な知識を体系的に理解する”ためには、学生として学習意欲を高め、基礎知識を習得することが大切です。</p> <p>予定している15回 の講義だけでは、十分に理解することは難しく、また、日々新たな情報や変化のある学問領域でもあります。</p> <p>予習、復習、情報収集等、努力を怠らないようにしましょう。</p> <p>少しでも微生物を身近に感じてください。</p>
テキスト	<p>書名/著者名/発行所 系統看護学講座 専門基礎分野 「微生物学」/ 南嶋洋一、吉田真一ほか/ 医学書院</p>
参考文献	<p>書名/著者名/発行所 からだをまもる免疫のふしぎ/日本免疫学会/羊土社 はじめの一步のイラスト感染症・微生物学/本田武司編/羊土社 わかる!身につく!病原体・感染・免疫/藤本秀士編著/南山堂</p>

必修科目(14)

科目	薬理学	単位	1	時間数	30	開講期	1年 後期	担当者	石川 智久
----	-----	----	---	-----	----	-----	----------	-----	-------

講義の概要および学習目標	<p>薬理学は、現代医療の根幹である薬物治療の基盤となる学問である。薬の作用機序を理解することにより、薬の適正使用に関する基本的事項を身につける。</p> <p>本授業では、薬と生体の両面にわたる、遺伝子レベル、分子レベル、細胞レベル、組織レベル、個体レベルの基礎的な知識をもとに、薬と疾患に関する基本的知識を修得するとともに、薬の作用を病態発症メカニズムとの関連から理解し、薬がどのような作用機序によって疾患に効くのかを理解する。</p>
講義内容	<p>第1回 薬理学総論</p> <p>第2,3回 抗感染症薬・抗がん薬・免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬</p> <p>第4,5回 末梢神経系に作用する薬物・呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器に作用する薬物</p> <p>第6,7回 中枢神経系に作用する薬物（第8回 中間試験と解説）</p> <p>第9,10回 循環器系に作用する薬物</p> <p>第11,12回 物質代謝に作用する薬物</p> <p>第13回 皮膚科用薬・眼科用薬</p> <p>第14回 漢方薬（第15回 期末試験と解説）</p>
評価法	中間試験と期末試験の成績を平均して評価する。
受講生への要望	授業では、暗記ではなく理解が必要な薬の作用メカニズムを中心に解説する。できる限り授業中に理解するように努めること。もし授業中に理解できなければ、後回しにしないで、その場で積極的に質問するように。
テキスト	書名／著者名／発行所 系統看護学講座 専門基礎分野 「薬理学」／吉岡 充弘 他／医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所 1) 今日の治療薬／伊豆津宏二 他 編／南江堂 2) 薬が見える／MEDIC MEDIA

必修科目(15)

科目	臨床薬理学	単位	1	時間数	15	開講期	2年前期	担当者	薬剤師:櫻井 貴斗 真柄 佳享
講義の概要および学習目標	<p>「薬理学」で学んだ薬の知識を、実際に臨床現場で適用していく為に必要な知識を学ぶ機会となります。</p> <p>同じ薬でもその効果は、厳密には一人一人異なります。時には、Aさんには有効なものがBさんには無効であったり、有害である事もあります。この現象を理解する為には、患者個々の特性を考える必要があります。</p> <p>薬は両刃の剣です。薬の有益な効果を最大限に引き出し、有害な作用を最小限に食い止める為、患者に接する時間が最も長い看護師を目指している皆さんに期待しています。看護師も、適切な薬物療法を遂行するうえでのキーパーソンなのです。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 薬物治療の基礎 薬の取り扱い、薬物動態、安全管理 等 2 対症療法薬 解熱鎮痛薬、制吐薬、緩下薬、鎮咳薬、鎮静薬、睡眠薬 等 3 循環器疾患、呼吸器疾患の薬 4 消化器疾患、腎臓疾患、内分泌代謝疾患の薬 5 整形領域疾患、神経疾患、精神疾患の薬 6 循環動態薬(注射)、輸液、インスリン注射 7 抗精神病薬(臨時投与)、抗菌薬、ステロイド薬、周術期に使用する薬 								
評価法	期末試験								
受講生への要望	<p>「薬理学」で学んだ内容を復習しておいていただければ、本講義の理解がスムーズになります。解剖生理学や生化学の知識についても同様です。</p> <p>疑問が生じたらそのまま放置せずに、その日のうちに解決する癖をつける事も必要です。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統的看護学講座 別巻「臨床薬理学」／井上 智子 他／医学書院 2) 系統看護学講座 専門基礎分野「薬理学」／吉岡 充弘 他／医学書院 								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「臨床で役立つ薬の知識」改訂版／監修:折井 孝男／学研 2) 臨床場面でわかる! くすりの知識／監修:五味田 裕／南江堂 3) 疾病の回復を促進する薬／福永 浩司 他／NHK出版 								

必修科目(16)

科目	看護サイエンス	単位	1	時間数	15	開講期	3年前期	担当者	木野 仁
----	---------	----	---	-----	----	-----	------	-----	------

講義の概要および学習目標	<p>この科目は単なる物理学ではなく、強いて言えば「看護物理学」である。看護と物理学は数多くの接点を持ち、それを知ることによって、より安定・安楽な看護が可能になったり、ときには医療ミスを防ぐ結果につながることも少なくないのである。体位換をはじめとする看護技術は力学的な原理を知らなければ、単に技術の伝承にすぎず、技術の改善や応用は不可能である。また圧力は血圧・吸引・ポンプ・採血・低圧持続吸引装置の原理など多くの場面で看護と関わりを持ち、これらの知識が不十分であると、事故につながることもある。</p> <p>ここでは看護における「物理」とそれを応用したエビデンスを学ぶ。</p>
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ・運動と力(力, 速度, 加速度, 力のモーメント, エネルギー, 圧力など) ・熱(熱, 温度, 仕事など) ・光と音(波, エコー, 音, 光の干渉など) ・電気と磁気(電流, 電圧, 抵抗, 磁場など) ・放射線(放射線の人体の影響, 医療における利用など)
評価法	<p>筆記試験</p>
受講生への要望	<p>全8回の講義ではあるが、非常に多くのことを学ぶ。しかしながら、決して難しい内容ではなく、物理学の知識が皆無であっても、中学時代に学んだ理科と数学の知識をベースにして十分理解できる内容である。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 物理学(系統看護学講座基礎分野)/豊岡 了(代表著者)/医学書院</p>
参考文献	<p>書名／著者名／発行所 1) 完全版 ベッドサイドを科学する／平田 雅子／学研 2) なぜ?を知ったらこわくないベッドサイドのサイエンス／平田 雅子／日本看護協会</p>

必修科目(17)

科目	保健医療論	単位	1	時間数	15	開講期	1年前期	担当者	医師:村田耕一郎
----	-------	----	---	-----	----	-----	------	-----	----------

講義の概要および学習目標	現代の医療の制度とそれに伴う問題について知識を得る。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 疾病とは何か 治療とは何か 2 現代日本の社会保障、医療保険 3 日本の医療の現状と国民の意識 4 日本の医療の問題点 5 医療者の役割 6 医療安全 7 医の倫理
評価法	筆記試験と出席
受講生への要望	現在の医療制度で、まだ結論の出ていない問題が多くあることを認識する。医療者であることを自覚する。
テキスト	書名／著者名／発行所 1) 系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論／康永秀生／医学書院 2) 系統看護学講座 別巻 総合医療論／小泉俊三ほか／医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所

必修科目(18)

科目	栄養管理特論	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	久保田 美保子
講義の概要および学習目標	<p>・ライフステージ別に食生活の問題を理解するために、身体と栄養素の機能、体内での役割、食事摂取基準、食品の特徴などの基礎知識を学び、疾病予防、治療を関連づけて健康な生活を営むための「食」について考察する。</p> <p>・疾病の栄養管理、食事療法は治療の一環であり、また看護のうえでも患者サービスの重要な一翼を担うものである。それを学び、地域医療における栄養ケア・マネジメント、さらに多職種との栄養管理チームへ参画するための知識を身につける。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護と栄養 チーム医療 2 栄養素の栄養的役割 3 食物の消化、栄養素の吸収・代謝 4 エネルギー代謝 5 栄養ケア・マネジメント 6 栄養状態の評価・判定 7 ライフステージと栄養 8 栄養補給法 9～14 疾患別栄養食事療法の実際 15 医療・介護保険制度と栄養管理 まとめ 								
評価法	<p>・筆記試験(栄養学、栄養食事療法)</p> <p>・レポート、授業態度 以上の総合評価とします</p>								
受講生への要望	<p>・授業開始、終了時に挨拶すること。</p> <p>・休まず出席すること。</p> <p>・生化学、病態の授業と関連づけて理解を深めて下さい。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門基礎分野「栄養学」／中村 丁次ほか／医学書院 2) 系統看護学講座 別巻「栄養食事療法」／中村 丁次ほか／医学書院 3) 「糖尿病食事療法のための食品交換表」第7版／日本糖尿病学会 文光堂 4) 「八訂準拠 ビジュアル食品成分表2026」／大修館書店 								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p>								

必修科目(19)

科目	社会福祉論 I	単位	1	時間数	15	開講期	1年後期	担当者	東野 定律 木村 綾 天野 ゆかり
----	---------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------------------------

講義の概要および学習目標	<p>目標 我が国における社会福祉、社会保障のしくみや特徴について基礎的な知識を習得する。また、少子高齢化、人口減少社会などの社会構造の中において、多様かつ複雑な健康ニーズ、生活ニーズをもつ対象者に対するの社会保障制度の役割について理解する。</p> <p>概要 社会福祉の基礎的な知識を習得するために、社会保障のしくみや関連する制度や支援のあり方等について解説する。少子高齢化、貧困、社会保障財源のひっ迫など社会が抱える様々な課題を提示しながら、看護職に求められる視点や役割について考察する。</p>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障と社会福祉 ※年金制度と雇用保険制度を含む (東野)10/2(金)3限目 2. 医療保険制度と地域医療構想 (東野)10/2(金)4限目 3. 生活保護法と生活困窮者自立支援法(木村)10/9(金)3限目 4. 障害者福祉(木村)10/9(金)4限目 5. 児童福祉 (木村)10/23(金)3限目 6. 地域福祉(木村)10/23(金)4限目 7. 介護保険制度と地域包括ケアシステム(天野)10/30(金)3限目 8. 試験(天野)11/6(金)2限目
評価法	受講態度、課題レポート、試験により総合的に判断する
受講生への要望	社会の変化に伴い、看護師の役割や就労場所も多様化してきています。医療機関に限らず、在宅や施設など、対象者の生活の場や個別性に応じたケアが期待されています。このような多様化・複雑化する対象者のニーズに応えるためにも、関連する社会福祉制度やそのしくみについてしっかり学んでください。
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「社会保障・社会福祉」／福田 素生 他／医学書院 ※講義時適宜資料を配布する</p>
参考文献	書名／著者名／発行所

必修科目(20)

科目	社会福祉論Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	東野 定律 木村 綾 天野 ゆかり
----	--------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------------------------

講義の概要および学習目標	<p>目標 保健、医療、福祉、介護などにかかわる様々な制度、サービスの現状と課題を学び、具体的な事例を通して理解を深める。</p> <p>概要 少子高齢化が急速に進展する現代社会において、健康、医療、福祉、介護へのニーズが高まっている。特に、地域における医療と福祉、介護サービスの連携の重要性が増しているが、医療、福祉の人材不足や各種制度における対応の課題も多い。これらの特徴をふまえ、社会福祉に関連する様々な社会資源や取り組みに関する理解を深め、地域包括ケアシステムにおける多職種連携や事例展開についてグループで発表、共有する。</p>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次(社会福祉論Ⅰ)の振り返り(木村) 4/24(金)3限目 2. 障害児・者における福祉の動向(木村)4/24(金)4限目 3. 権利擁護と成年後見制度 (木村)5/1(金)3限目 4. 地域における多様な社会資源 (木村)5/1(金)4限目 5. 高齢者福祉の動向(天野)5/8(金)3限目 6. 福祉・介護人材育成のマネジメント(天野)5/15(金)3限目 7. 海外のコミュニティケア(天野)5/29(金)3限目 8. 地域包括ケアシステムの実際(東野)6/5(金)2限目 9. 多職種連携とチームアプローチ(東野)6/5(金)3限目 10. 地域共生社会にむけてのコミュニティケア(東野)6/12(金)2限目 11. 福祉コミュニティづくり(東野)6/12(金)3限目 12. 国際生活機能分類の概念と活用(天野)6/19(金)3限目 13. 事例検討・グループワーク(木村)6/26(金)3限目 14. 発表(木村)6/26(金)4限目 15. 試験(天野)7/17(金)3限目
評価法	<p>・授業態度、グループワークの取り組み、試験により総合的に評価する</p>
受講生への要望	
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「社会保障・社会福祉」／ 福田 素生／ 医学書院 ※適宜資料を配布する</p>
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p>

必修科目(21)

科目	法と関係法規	単位	1	時間数	30	開講期	3年前期	担当者	国京 則幸		
講義の概要および学習目標	<p>看護という職業と法との関係を理解するために、責任という観点から法の枠組・体系について学び、法的な考え方の基礎を修得する。さらに、医療提供のための制度と医療を保障するための制度全般について学び、あわせて、それら諸制度の関連性・看護の位置付けについても理解する。</p> <p>《学習目標》 看護という職業に携わる者として理解しなければならない法の基礎を学ぶ。 医療を提供する枠組の全体像およびそれぞれのしくみの関連性について理解する。</p>										
講義内容	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護と法・法律・概論 2 看護師の法的位置づけ(資格) 3 看護師の法的位置づけ(業務・総論) 4 看護師の業務と責任(責任体系) 5 看護師の業務と責任(民事責任) 6 看護師の業務と責任(民事責任) 7 看護師の業務と責任(刑事責任) 8 看護師の業務と責任(刑事責任) 9 医療の提供と看護(医療制度) 10 医療の提供と看護(医療保障制度) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 11 関連法規 その1 12 関連法規 その2 13 関連法規 その3 14 関連法規 その4 </td> </tr> </table>									<ol style="list-style-type: none"> 1 看護と法・法律・概論 2 看護師の法的位置づけ(資格) 3 看護師の法的位置づけ(業務・総論) 4 看護師の業務と責任(責任体系) 5 看護師の業務と責任(民事責任) 6 看護師の業務と責任(民事責任) 7 看護師の業務と責任(刑事責任) 8 看護師の業務と責任(刑事責任) 9 医療の提供と看護(医療制度) 10 医療の提供と看護(医療保障制度) 	<ol style="list-style-type: none"> 11 関連法規 その1 12 関連法規 その2 13 関連法規 その3 14 関連法規 その4
<ol style="list-style-type: none"> 1 看護と法・法律・概論 2 看護師の法的位置づけ(資格) 3 看護師の法的位置づけ(業務・総論) 4 看護師の業務と責任(責任体系) 5 看護師の業務と責任(民事責任) 6 看護師の業務と責任(民事責任) 7 看護師の業務と責任(刑事責任) 8 看護師の業務と責任(刑事責任) 9 医療の提供と看護(医療制度) 10 医療の提供と看護(医療保障制度) 	<ol style="list-style-type: none"> 11 関連法規 その1 12 関連法規 その2 13 関連法規 その3 14 関連法規 その4 										
評価法	試験により評価(講義への出席は試験の前提となる)										
受講生への要望	<p>一方通行の授業ではつまらないので、できるかぎりやりとりしながら理解を深めたいと考えています。したがって、講義に際しては、テキストの該当箇所はあらかじめ通読しておいてください。 なお、講義自体は配布するレジュメにのっとり進めます。</p>										
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「社会保障・社会福祉」／福田 素生／医学書院 2) 系統看護学講座 専門基礎分野 「看護関係法令」／森山 幹夫／医学書院 										
参考文献											

必修科目(22)

科目	公衆衛生学	単位	1	時間数	15	開講期	3年後期	担当者	田中 一成 小畑 充彦 中川 美乃里
----	-------	----	---	-----	----	-----	------	-----	--------------------------

講義の概要および学習目標	<p>人々の健康は、個人の体質や生活習慣のみで決まるのではなく、自然環境・社会環境・文化的環境などと深く関係している。公衆衛生の目的は、人々の生活の質(QOL)を向上させるために、社会全体で人々の健康の維持・増進のための仕組みを構築することである。その考え方の基盤となる科学的根拠と、その応用としての様々な対策(政策や計画)を理解する。</p>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生とは 公衆衛生の活動対象 2 公衆衛生のしくみ 3 集団の健康をとらえるための手法－疫学・保健統計 4 環境と健康 5 感染症とその予防策 6 歯科保健 7 食品衛生 8 筆記試験
評価法	出席状況と授業への取り組み、筆記試験による総合評価とする。
受講生への要望	
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「公衆衛生」／神馬 征峰/医学書院 2) 「国民衛生の動向 2023/2024」／厚生労働統計協会
参考文献	